

飼料用甘藷の貯蔵法に関する試験

満岡 勝*・甲斐光夫*・内村忠道*・足立照夫*

MAOKA, M., KAI, M., UCHIMURA, T. and ADACHI, T.
Several Methods of Ensilaging Sweet Potatoes for Feed.

緒言 九州における甘藷の作付面積は約 14 万 ha で収穫量は 22.5 億 t であるが、その内約 10% が家畜飼料として利用されている。家畜飼料としての甘藷の貯蔵法は種々あるが、最も簡単な方法として甘藷に生澱粉粕を混合して貯蔵の可、否を試験したので報告する。

方法 供試した甘藷の品種は農林 1 号で 11 月 21 日掘取つたものを翌 22 日に水洗し、生澱粉粕を 2~3 時間水切りしたもの(水分 89.5%)と混合し詰込んだ。

サイロは直径 1.2m、深さ 24m のコンクリート製半地下式サイロ 4 基と、これと同規格の素掘サイロ 2 基計 6 基を用いた。なお素掘サイロは内壁を吠で張りを使用した。

詰込みは第 1 図のに甘藷と生澱粉粕を層状に重ねて詰

*九州農業試験場

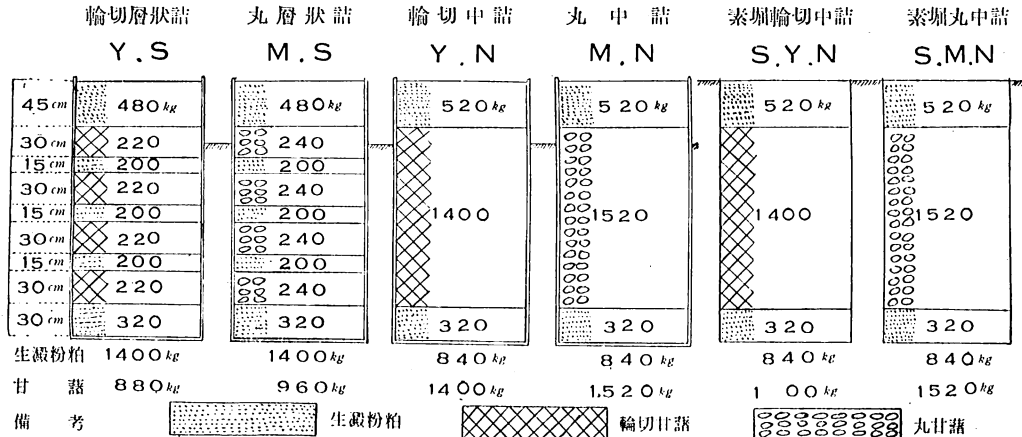
めるものと、最下層と最上層のみ生澱粉粕を詰める方法で行い、さらに甘藷を丸のままと輪切りにしたものに区分して詰込んだ。輪切の厚さは 4 mm 程度にし、詰込み後は上部及びサイロの外壁を吠で被つた。

取り出しは Y.S は 3 月 14 日、その他は 5 月 9 日であつた。

成績 試験期間中のサイロ内容温度は、コンクリート製サイロでは 9.1~15.7°C の低温に経過し、素掘サイロは 10.2~31.4°C の高温に経過した。

品質は素掘サイロに詰込んだものは全部腐敗し、その他は表層より 0.5~1.0 cm までが黒色に変色した。輪切甘藷は原形をとどめず生澱粉粕と溶混していたが、丸甘藷は原形を保つていた。総酸量は 1.01~1.08 %で、pH は 3.2~4.5% であり、豚に対する嗜好性は良好であつた。

第 1 図



結び 素堀サイロに詰込んだものは全部腐敗したが、コンクリート製サイロは殆んど腐敗がなかつた。

品質は総酸含量約1~2%、pH 3.2~4.5で豚の嗜好性も高い。

詰込み方法は層状詰、中詰いずれでも良い。又丸詰

と輪切詰とでは、給与の面からすると輪切詰の方が便利である。

本方法による甘藷の貯蔵は素堀サイロ以外は可能である。